

2026夏のイベントご報告！

あいち平和のための戦争展 8・13～16 市民ギャラリー矢田



「平和を願うロシア抵抗の顔」というコーナーにたいへんな人だかり



保存する会は「空襲死3687名、命の記録」と題して展示しました



保存する会総会 8・1



戦跡保存シンポジウム8・22～24



第29回土佐清水大会

戦争を語り継ぐ会

8月22日須田雅子さん講演会「満州で徴兵、フィリピンで戦死の父」 56人参加



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.193
2026 年
10月5日

瀬戸市追分町64-1
瀬戸市職労組 事務所
0561-84-4760
fax 84-4767
郵便振替口座番号
00820-9-105120
連絡先

事務局

寺脇

0572-23-5899

fax 同上

携帯

090-6575-4370

Eメール

tera-m@ob.aitai.ne.jp



2027年度 会費・カンパのお願い！

本会は総会を持って会計年度が替わります。8月1日以降に頂いた会費・カンパは2027年度会計に計上されます。会費は年間1000円です。同封の振込用紙でご送金ください。よろしければ併せてカンパいただくと助かります。よろしくお願いいたします。（事務局）

2026年10月1日現在 会員 151名	名古屋市										瀬戸市
	西丸加西鵜	田藤藤	田義潤	田悦子	田悦子	田悦子	田悦子	田悦子	田悦子	田悦子	
1	1	2	2	2	2	1	3	2	2	1	1
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名	2	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円

瀬戸市

ありがとうございます
ございました！
2026・27年度
会費およびカンパを頂いた方

高知県西南部の戦争遺跡

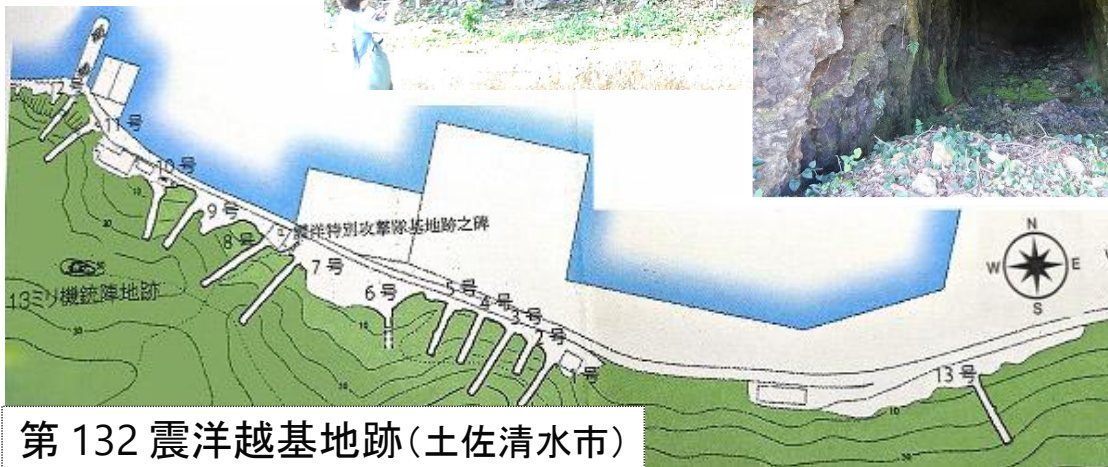


8月22日、24日の3日間、高知県土佐清水市で第28回全国戦跡保存シンポジウムが行われました。初日は全体会で基調報告や記念講演会が行われ、二日目は分科会とまとめの全体会が行われました。最終日の戦跡見学会では本土決戦用の震洋特攻基地や艦隊が寄港した宿毛基地など見ごたえのある戦跡がいくつも存在し、とても半日では無理な日程でしたが、列車の関係で超特急で見学し心残りの多い見学会でした。

シンポジウム2日目の第2分科会（調査方法と保存整備技術）では①高知市朝倉陸軍基地忠霊塔の建造物調査②戦後の慰霊碑銘文から見る軍国主義・戦後の戦争遺跡③東京第二陸軍造兵廠坂ノ市製造所④旧日本陸軍の標準設計から見た建築設計の4本が報告されました。ハードの面に若い研究者が活躍されていて頼もしかったです。（寺脇）



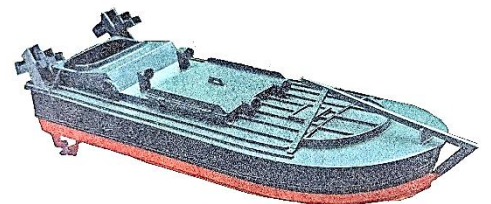
基調報告される出原共同代表



第132震洋越基地跡(土佐清水市)

左図・下図は土佐清水市教育委員会製作パンフレットから引用しました

ここは500mの海岸部に13基もの横穴が掘られ、25艇の「5型震洋(二人乗り)」(右図)が配備されていたそうです。各壕とも幅・高さは3mで、最長で37m、短いもので16m、25m前後のものも多く、全体では320mにもなります。本土決戦を想定したボート特攻の基地だったのです。ここに配属されていた部隊は茨城県土浦の「土浦海軍航空隊甲種予科練14期生」で、平均年齢は17歳。出撃命令はおりませんでした、機銃掃射な



どの空襲で3名がなくなっています。また高知市の東の香南市にあった「第128震洋隊」では爆発事故で111名の隊員がなくなるという事故があったそうです。ちなみにこの特攻兵器「震洋」は終戦までに6200隻が作られ、台湾、フィリピンを含めて全国に4200隻が配備されたそうです。2024年土佐清水市はこれらの壕をすべて市史跡に指定しました。

宿毛湾宇須々木の戦争遺跡(宿毛市)



「油倉庫」



魚雷の調整を行った壕(フックがある)



「油倉庫」に至る花崗岩の階段



水上機の滑走台(スperi)

宿毛海軍航空隊遺跡

宇須々木には水上偵察機要員の練習航空隊である宿毛海軍航空隊がありました。二式水戦や水上偵察機が配備されました。戦争遺跡としては長さ70m、幅40mの水上機の滑走台(スperi)や飛行機の進入路を示す電灯柱(高さ5.5m)飛行機を止めておく駐機場があり、陸揚げした水上機を繋留する装置(一片45cmの四角い花崗岩の中心に直径20cm、太さ2cmの鉄製のリング)が200ヶ所以上が現存しています。

宿毛湾は豊後水道に向かって開口する天然の良港で、奥行きがあり、水深も深く、外洋に近いことから近代に至って海軍の注目するところとなり、艦隊の宿地、訓練、水補給、実験場として使われるようになりました。宿毛湾が艦隊泊地となったのは1933年以降だと言われます。見学会で最初に見学したのは、レンガ造りの燃料庫です。1938年竣工でコンクリートの頑丈な壁が周囲を取り囲んでいました。そして次に見学したのが、「油倉庫」隧道式コンクリート製、1941年6月竣工で延長35m、幅7m、高さ10mの巨大なものです。市道の上にあり、花崗岩の階段が設置されています。また付近には、魚雷の調整を行った壕なども見られます。



駐機場にある水上機を繋留する装置(丸いところ)



飛行機の進入路を示す電灯柱

愛知県の戦跡調査報告書を受け、注目される「瀬戸地下軍需工場跡」

小学校そば 地下工場

戦争の跡を
訪ねて

県の調査報告書から

隣接する陸上競技場でサッカーの試合が開催されていた。歓声が上がるヒッチに背を向ける。雑木林が広がる。「瀬戸地下軍需工場跡を保存する会」の事務局長、寺脇正治さん(74)に案内してもらい、フェンスの向こうから林に入ると、ややひんやりと感じた。奥へ奥へと進むと、コンクリートで覆われた洞窟のようなものが現れた。

工場は1945年2月に完成したとされている。愛

知航空機は「愛知時計電機」の航空機部門が独立して43年3月に設立。本社は名古屋市中区の永徳工場に置かれ、艦上爆撃機「彗星」などを生産した。

44年12月の東南海地震で大きな被害を受けたことや米軍による空襲を避けたことになったという。寺脇

在もそのまま残る。

知航空機は「愛知時計電機」の航空機部門が独立して43年3月に設立。本社は名古屋市中区の永徳工場に置かれ、艦上爆撃機「彗星」などを生産した。

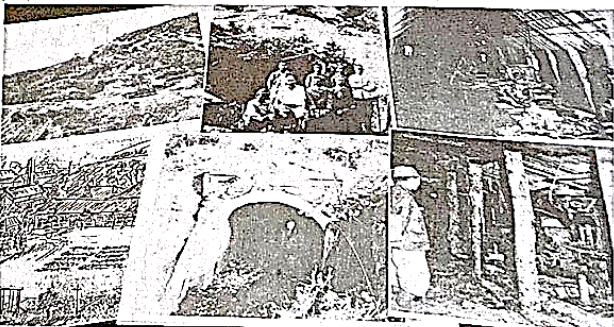
44年12月の東南海地震で大きな被害を受けたことや米軍による空襲を避けたことになったという。寺脇

在もそのまま残る。

さんは説明してくれた。現在は坑道の内部は崩落して土などで埋没。コンクリートで固めたアーチ形の入り口部分が5カ所残っている。それぞれの入り口に番号が振られており、第1区第7坑は上部、第2区第10坑は大部分が残る。どちらも幅と内部の高さは約2メートル。コンクリートの厚さは約30センチ、入り口から10メートルは当時補強されて、現在もそのままだ。



④ 愛知航空機瀬戸工場 (瀬戸市)



⑤ 大部分が残る第2区第10坑の内部を照らす寺脇さん

⑥ 終戦直後に米軍が撮影したとされる坑道内部の写真など。いずれも瀬戸市内で

(皇下翼)

それでも工場跡を知っている市民は多くない。坑道の入り口は存在は知られていても、防空壕だと思われているという。寺脇さんは「歴史をないがしろにしてはいけない。未来をゆきしていくために学んでいかないと」と危機感をにじませる。

ここで飛行機の部品が製造され、戦場で使われたのだらうか。終戦直後の半年だけ稼働していただけに、ほとんど資材がなかったかもしれない。できる限りの想像をしながら雑木林を抜けると、水野小が見えた。平和な未来のため、記憶を風化させてはいけなと感じた。

8・15 終戦の日

戦後90年

軍需工場遺構の保存と公開、なぜ進まぬ？ (朝日新聞 8・24)

豊川海軍工廠跡は、市民らによる20年以上に及ぶ保存運動が市を動かし2018年に公園として整備された。だが、軍の施設や空襲などの戦災跡に比べ、軍需工場跡の保存や公開は進んでいない。

愛知県が2026年3月に公表した県戦争遺跡調査報告書によると、確認された46カ所の軍需工場跡のうち遺構が現存しているのは34カ所。そのうち文化財に指定登録されているのは、海軍工廠跡と尾張旭市にある国登録有形文化財の「旧旭兵器製造本社事務棟」(現旭サナック本館、一般非公開)の2件にとどまる。

瀬戸市にあった愛知航空機工場跡の保存を市に働きかけてきた「瀬戸地下軍需工場跡を保存する会」の寺脇正治事務局長(74)は「軍需工場は民間企業や国民の戦争協力の記憶と結びつき、保存が進んでこなかった」と指摘。「国が防衛産業や武器輸出の拡大を進める新たな時代に入り、軍需産業の市民生活への影響を考える上で、貴重な教訓を与えてくれる」と話す。



朝日新聞8月24日版にも写真つきで掲載される

第35回瀬戸地下軍需工場跡を保存する会総会

あいさつする渡辺代表



8月1日、文化センターで保存する会第35回総会を行いました。参加者は11名。事務局の高齢化にともない現状を知っていただくと同時に、これからの活動についてご意見を伺いました。
(寺脇)

2026年度(2025年8月～2026年7月)の活動内容(抜粋)



第34回総会(8月2日)
文化センター
参加者24名



あいち平和のための戦争展
(8月14日～17日)
市民ギャラリー矢田



現地整備作業(12月13日)



第5回愛航研究会「幻の人間爆弾「桜花43乙」開発の実態」
(10月11日)
19名参加



聖霊中高校生現地見学会
6月20日 3名



現地見学会 参加11名
(1月12日)



熱田空襲遺跡を守る有志の会
現地見学会 参加4名 11月13日



春の戦跡見学会「熱田を中心にした名古屋戦跡見学会」
24名 3月29日



第2回戦争体験を語り継ぐ会
「空襲死4376名、命の記録」報告 寺脇(5月23日)

第35回 瀬戸地下軍需工場 跡を保存する会総会要項

〈会場〉瀬戸市文化センター 12会議室
〈日程〉

・ 13時30分 総会開始

司 会 野田茂生
代 表 渡辺哲国

1、あいさつ

2、第1号議案：本年度の活動報告
事務局長 寺脇正治
会計報告ならびに監査報告

会 計 寺脇正治
会計監査 柴木房子

①質疑・応答・承認

3、第2号議案：定例事務局会議について

提案 事務局長 寺脇正治

②質疑・応答・承認

4、第3号議案：次年度の活動方針

事務局長 寺脇正治

③質疑・応答・承認

5、閉会のことば

司 会 野田茂生

・ 休憩

・ 総会記念座談会

進 行 寺脇正治

「わたしたちの37年とこれからの戦跡保存運動」

〈総 会〉

1、〈あいさつ〉

2、第1号議案：本年度の活動報告

(25年8月～26年7月)

1) 証言・資料の調査、記録する活動

・ 23年12月～

名古屋空襲死亡者名簿

(国家総動員令による動員学徒・徴用)

エクセル入力作業：寺脇

2) 市民・県民に向けた広報活動

2025年

・ 8月2日

第34回瀬戸地下軍需工場跡を保存する会

総会 24名参加、

事務局：渡辺、梅野、寺脇、加藤徹、加藤敏

晴、熊谷、野田、羽根田、大橋

総会記念講演会「豊田製鋼(現 愛知製鋼)

疎開工場の再発見」講師：山田富久さん

・ 8月14日～17日

あいち平和のための戦争展

事務局：寺脇、大橋

・ 10月11日

第5回愛知航空機研究会「幻の人間爆弾「桜

花43乙」開発の実態」

参加者19名

事務局：渡辺、寺脇、樫村

2026年

・ 1月25日

現地見学会 水野地域交流センター

11名参加 事務局：加藤徹、寺脇

・ 5月23日

戦争体験を語り継ぐ会第2回

「空襲死4376名、命の記録」報告 寺脇、

参加23名 事務局：寺脇、加藤敏晴

・ 6月20日

聖霊中高 土曜セミナーで現地見学

生徒1名、保護者1名、教員1名

事務局：寺脇

・ ホームページ 閲覧数 29801

(7月23 日現在)(1日あたり3・3人)

3) 戦争遺跡等の見学会、他団体と交流、

全国に紹介する活動

2025年

・ 8月23日～25日

戦争遺跡保存全国シンポジウム第28回

信州まつもと大会

参加 寺脇、樫村

・ 10月27日

名古屋・愛知戦争に関する資料館岡村学芸員

が地下工場跡地見学

案内：寺脇

・ 11月13日

熱田空襲遺跡を守る有志の会 林信敏さん
他3名 現地見学 案内…寺脇

・12月14日

第41回空襲戦災を記録する東海交流会

特別報告で檜村さん、山田富久さん報告

事務局…寺脇

2026年

・3月29日

春の戦跡見学会 熱田を中心にした名古屋

戦跡見学会 参加24名

事務局…熊谷、野田、加藤徹、寺脇、檜村

4) 地下軍需工場跡地を保存・整備する活動

2025年

・12月13日

現地整備作業 参加…加藤徹、熊谷、野田、

大橋、寺脇

5) 組織活動(会報の発行)

・会報を5回(NO188～NO192)

発行。

6) 瀬戸市及び諸機関に対する要請

本年は特に行わず

7) 保存する会の運営・会員の拡大

・事務局会議を毎月第2水曜日(8月以外)

開催。

会員数は7月23日現在 152名。

8) 会計報告 ならびに監査報告

2026年度

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会会計報告

1、収支合計

収 入	支 出	差引残高
517,580	217,956	299,624

2、収入内訳

内 容	金 額
前 年 度 繰 越 金	297,534
そ の 他(資料・講師謝礼・見学会残金など)	18,976
年 会 費 お よ び カ ン パ	184,770
証 言 集 売 上	16,300

3、支出内訳

内 容	金 額
郵 送 料 会報(188号～192号)・書籍郵送等	127,814
印 刷 通 信 費 (コピー紙、封筒、会報印刷代など)	41,096
材 料 費 (模型材料費、展示パネル制作など)	11,100
会 合 費 (公民館借用費、謝礼など)	19,448
参 加 費 (戦争展分担金など)	10,352
調 査 資 料 費 (資料、書籍、見学会補助など)	5,046
維 持 管 理 費 (遺跡保存管理費)	0
雑 費 (駐車場代、振込手数料など)	3,100

以上の通り報告します。残金は次年度に繰り越します。

2026年7月 27日 瀬戸地下軍需工場跡を保存する会

会 計

寺 脇 正 治

会 計 監 査

栄 木 房 子

① 質疑・応答 承認

3、第2号議案・定例事務局会議について(案)

提案：事務局長 寺脇正治

現行

「事務局会議を毎月（8月以外）1回開催。毎月第2水曜日午後5時30分より、市職労組合事務所で行う。」のうち、

開催日時ならびに開催会場を変更したい

事由 ① 前事務局長加藤徹氏の体調不良により会場の市職労組合事務所での開催が困難になった。

② 他の事務局員は仕事等の関係で水曜日の午後5時30分には参加困難である。

提案 定例事務局会議（8月をのぞく）の開催日時、開催場所を以下のように変更する

日時：各月初旬の（土曜日・日曜日）
（15：00）より
会場：パルティセと3階 交流広場
で行う

② 質疑・応答 承認

4、第3号議案

次年度の活動方針 及び事務局体制

（26年8月～27年7月）

1）証言・資料を調査、記録する活動

・地下軍需工場に関する新たな証言や資料、瀬戸地域の戦争体験談、戦時下の市民のくらしや産業・職場の状況などの写真や記録、地域に残っている遺跡などを調査・記録する。
・名古屋空襲被害者名簿（国家総動員令による動員学徒・徴用）の分析

2）市民・県民に向けた広報活動

- ① あいち平和のための戦争展（8月13日～16日 市民ギャラリー矢田）に参加する。
- ② ピースフェスティバル in 瀬戸に協賛すると共に「戦争を語り継ぐ会」に参加する。
- ③ 地域宣伝に努力する。また、地域の活動・イベントに参加し「地下軍需工場跡を史跡に！」の理解を広める。
- ④ 瀬戸地下軍需工場跡を見学する会を開催する。（27年1月予定）現地見学会
- ⑤ 瀬戸市生涯学習市民講師として学校や他団体の要請に応じ講演講習ならびに資料の貸し出しを行う
- ⑥ 地下軍需工場跡地散策遊歩道マツ

プ・看板等が公共機関に設置できるよう働きかける。

⑦ 瀬戸市民活動センターの登録団体として市民との交流を図る。

（交流フェスタ参加11月28日（土））

⑧ インターネットホームページ等デジタルコンテンツを活用する。

ホームページ

<http://ob.aitai.ne.jp/~tera-m/index.htm>

2001年8月開設

フェイスブック（2012年4月開設）

いずれも「瀬戸地下」で検索

メール tera-m@ob.aitai.ne.jp

3）戦争遺跡等の見学会、他団体と交流、全国に紹介する活動

- ① 戦争遺跡保存全国ネットワークに参加する。
- ② 第28回戦争遺跡保存全国シンポジウム 土佐清水大会参加予定
- 8月22日全体会、23日分科会、24日 現地見学会
- ③ 空襲・戦災を記録する会に参加する。
- ④ 空襲・戦災記録づくり東海交流会に参加する。（12月13日（日））ピースあいち
- ⑤ 戦争遺跡等の見学会を27年3月末日曜日に開催する。

4) 地下軍需工場跡地を保存・整備する活動

・地下軍需工場跡地の整備（入口などを巡る散策道 草刈、案内表示板の設置等）を行う。

5) 組織活動（会報の発行・会員の拡大）

① 会の取り組み・証言・会員からのたよりを会員に伝えるため、会報を年5回程度発行する。（皆様からの御意見・情報・証言をお待ちしております。）

② 会の活動費・会報の郵送代を確保するため、会費を徴集する。（1年1口 1000円）

※振込用紙で送金される場合は、振込手数料込でお願いします。

③ 会員を拡大を図る。

（7月23日現在 152名）

6) 瀬戸市・県・国への要請

・地下軍需工場跡地一帯が保存され「平和への散歩道」を実現させるため、瀬戸市・県・国に要請する。

・「水野の里郷土館（仮称）づくり」

歴史と自然の宝庫「水野の里」の素晴らしさを伝えるとともに、平和を考える資料館づくりをめざす。

7) 保存する会の運営

・定例事務局会議・第2号議案に準じる

8) 事務局体制

代表

渡辺哲国

事務局長（会計・会報） 寺脇正治

「あいち平和のための戦争展」担当

資料調査

熊谷達也

資料調査

野田茂生

「春の戦跡見学会」担当

資料調査

羽根田正之

広報渉外

加藤敏晴

ピースフエスティバル in せと

「戦争を語り継ぐ会」担当

会計監査

榮木房子

（大橋正博）

2028年までタイ日本人学校

顧問

大塚英二

顧問

櫻村愛子

9) 年間活動計画（下表）

（2026年8月～2027年7月）

③質疑・応答 承認

事務局員 紹介

以上

月	行事名	月	行事名	月	行事名
8	35回総会(8/1)	12	第42回空襲・戦災記録づくり東海交流会(12/13)	4	戦争を語り継ぐ会実行委員会/あいち平和のための戦争展実行委員会 事務局会
	あいち平和のための戦争展(8/13～16)		現地整備		
9	事務局会	1	現地見学会 ならびに学習会 (1/31)	5	第2回「戦争を語り継ぐ会」 会報196号発行 戦争を語り継ぐ会実行委員会/あいち平和のための戦争展実行委員会 事務局会
			会報194号発行		
10	聖霊中高現地見学会	2	戦争を語り継ぐ会実行委員会 事務局会	6	聖霊中高現地見学会 戦争を語り継ぐ会実行委員会/あいち平和のための戦争展実行委員会 事務局会
	会報193号発行				
11	パルティセと交流会(11/28)	3	春の戦跡見学会 会報195号発行	7	会報197号発行 戦争を語り継ぐ会実行委員会/あいち平和のための戦争展実行委員会 事務局会
	事務局会		戦争を語り継ぐ会実行委員会/あいち平和のための戦争展実行委員会 事務局会		

聖霊高校生 原水禁 参加報告④

世界大会

2025年11月4日

文化センターで原水禁世界大会(8月6日)に出席した5名の高校生の報告が行われましたが、今回は最後の2名の発言を掲載します。

高校一年のKです。まずは戦後80年という大切な節目に原水爆禁止世界大会に参加する機会をいただき、ありがとうございます。今回参加したことで自分の視野の広がりを感じるとともに平和をつくるために自分になりがでるのかを考える機会となりました。私は修学旅行で広島に行き、語り部活動をしている切明さんからお話をいただきました。思わず耳を塞いでしまいたくなるようなお話は家族や友人に囲まれて何不自由なくすごしてきた私にはかけ離れたもので戦争の悲惨さをリアルに想像することはできませんでした。ですが、そのお話の中で

「次はあなたが平和を作っていくてください」というメッセージが、とても心に残りました。

それは曾祖父の存在が大きかったと思います。私の曾祖父は戦争経験者でした。家に遊びに行くと、いつもうれしそうな笑顔を見せていましたが、一度だけ辛そうで今まで見たこともないような表情をした時がありました。それは戦争の話をしてくれた時でした。私は小さかったため、どんな話をしてくれたかは記憶があいまいな部分が多いですが、切明さんのお話で、その時の光景を思い出しました。もうだれにもあのような表情をしてほしくありません。

そして修学旅行から戻りふだんの日常を過ごしていた時、福山先生からお話をいただき、あのときの切明さんのメッセージを実行するために自分なりにどう行動していけばいいのか答えを見つけることが出来るのではないかと、今回参加させていただくことにしました。実際に参加したくさんの人にお話を聞き、考えたのは先ほどMが言っていたように「学びつづける」ことです。広島や長崎の惨状や戦争の歴史、核兵器がもたらす被害。被爆された方々の思い、そして今の世界の情勢など私には知

らないことがたくさんあります。学ばなければ平和を作ることはできません。学んだことをこれからの未来に伝えていくことが今を生きる私たちの使命なのだと、参加したことで強く思いました。ちょうど参加してみないかとお話をいただいたところ今年度の文化祭のテーマで私のクラスは広島について展示をすることが決まりました。クラス全員で広島灯籠流しや原爆ドームの再現を行うとともに今回の原水爆禁止世界大会の資料を展示し来場された方に核兵器の廃絶や、活動されている方の思いを伝えることができました。今の私には学んだことや自分の考えを世界に伝えていく術がありません。そのため、こういった数少ない機会を大切にしていきたいです。戦争はだめなことは、だれもが分かることだと思えます。しかし現実には世界中で争いが起き、今この瞬間にも多くの命が奪われています。核兵器は戦争の道具として使われ幸せな日常が脅かされています。戦後80年という年月がたった今、被爆された方々から直接お話を聞くことが出来るのは私たちが最後の世代かも知れませんが、この機会を無駄にすることなく、大切な日常を守り未来へとつないでいくために私は学び続けていこうと思います。ご清聴ありがとうございました。

聖霊高校1年のCです。私は核という面に視点を置き、話させていただきます。8月6日に足を踏み入れた瞬間から人の多さや人の多さに張り詰めた空気にとっても圧倒されました。そして今回、参加させていだいた原水爆禁止世界大会では被爆者の方や被爆二世の方々には直接お話し



をお伺いする機会があり、戦時作品だけでは伝わって来ない生の言葉が重く胸に響きました。被爆者の方の話を聞きたび長年にわたって平和の大切さを訴え続けてこられた努力と覚悟に本当に胸が熱くなりました。また本当に印象に残ったのは「平和は当たり前ではない」という言葉です。平和が当たり前だと思っていた昔の自分が恥ずかしくなり、平和を守るためにはどうすればいいのかを真剣に考えるようになりました。また世界各国の皆様の意見を聞くことが出来、核廃絶は単なる理想ではなく現代の国際社会における共有の最優先の課題であると深く考えさせられました。一方で私は中学3年生の時の卒業論文で核融合発電について学びました。核融合は温室効果ガスをほとんど出さず、大量のエネルギーを生み出すと期待されている技術です。補足として核兵器のウランなどの同じ物質を一機に暴走させる核分裂とは違い、水素の原子核同士を高圧高温で融合させ大量のエネルギーを得る仕組みです。二酸化炭素を出さず、放射性廃棄物も少ないため「未来のクリーンエネルギー」と期待されています。今回、お話しするにあたり、もう少し掘り下げ採掘現場について考えてみました。ウランは原子力発電や核兵器の材料として使われていますが、その

採掘現場では深刻な放射線被害が起っています。ウラン鉱山では放射線物質を含む、粉塵やガスが発生し、作業員や周辺住民がそれを吸い込むことで肺がんや白血病などの健康被害が報告されています。とくにナビビアやニジェールなどの鉱山では先住民が放射線汚染や水質汚染に苦しんでおり環境と人権の両面から大きな問題になっています。日本でも過去に茨城県の大洗町で放射線管理が不十分で事故が起き、原発の扱いにどれほどの慎重さが必要なのか社会に印象付けたと思います。採掘や処理の段階でも発生する放射線廃棄物や汚染水は長期的に環境に影響を与えるため単に「クリーンエネルギー」ということはできないのではないでしょう。エネルギーを与えるためにだれかの命や自分が危険になるという現実を考えると、私たちは本当の意味で平和的な利用とは何かということ深く考え直さなければなりません。このように核融合発電（※1原子力発電？）など良い技術でも人を巻き込み、使い方によっては核兵器などの人を傷つける兵器にもなります。しかし私は核兵器（※2？原子力発電？）そのものに善悪はなく、どう使うかだれのために使うかが重要であると考えました。発電用の核は濃縮度が低く管理されているにも関わらず、一

方で再処理や濃縮技術によって軍事転換する可能性があることを知りました。また採掘現場でも被害があり、さらに技術的な面においても光や陰との両面を意識するようにになりました。国際社会の現状をみると核兵器の問題は依然として深刻であるということがわかります。

世界には約12000発の核兵器が存在し、その大半はアメリカとロシアが保有しています。中でも2000発は高度警戒態勢にあり、数分以内に発射できる状況におかれています。冷戦時には一度は減少した核兵器数は近年再び増加傾向を見せ中国や北朝鮮などの開発が国際社会に緊張をもたらしています。核拡散防止条約NPTは核保有国の5大国の核保有に限定していますが、核廃絶は進まず核兵器禁止条約TPNWも保有国が参加していないため、条約の実効性には限界があります。さらにロシアウクライナ戦争で核使用を示唆しイランや北朝鮮も開発を続けています。こうした現状は核兵器の廃絶をめざすことはとても危険性があり、とても緊急性があり、現実的な課題であることを示していると思います。私は修学旅行授業または事前学習により、戦争の悲惨さを学び卒業論文で書く可能性を知り、今回の大会で核を選び取る責任を強く意識しました。核は

人類を滅ぼす武器にも十分なりえます。その重みを胸に私は核兵器の廃絶を心から願う世界の平和を自分事として考え続けたいと思います。被爆者の方々が訴え続けてきた核兵器のない世界という願いを次の世界に受け継ぐ責任を強く感じました。私たちのような高校生にできることは少ないかもしれませんが。しかしニュースに関心を持つこと友人や家族と意見を交わすこと。学校や地域で平和について発信すること。そうした日々の行動が未来の社会に少しずつ影響を与えると信じています。世界各地で核兵器が使われる危険性を減らすには国際的な取り組みだけではなく、市民一人一人の意識が欠かせません。被爆者の方々の願いを実現して行くために私の通っている聖霊高校のモットーである「光の子」として常に関心を持ち続け自分なりに発信していきたいです。最後に広島で原水爆禁止世界大会に参加させていただくという素晴らしい機会を与えてくださった先生方、支援してくれた両親、今日こうして聞きにきてくださった方々に心から感謝を伝えさせていただきたいです。長くなりましたが、ご清聴、ありがとうございます。

(注釈は事務局で)

以上

愛知航空機 動員学徒の手記②

会長の渡辺哲国さんも関わられた「愛知航空機 動員学徒の手記」を連載させていただきます。

出典：「愛知航空」動員学徒の手記95年12月刊行「愛知航空」動員学徒の手記編集委員会より (事務局)

名古屋―瀬戸動員中の思い

井合千枝子

(東京女高師家政科)

庄内川が海に入る手前の草土手を、女子学徒隊が隊列を組んで整然と歌いながら行く。

「海ゆかば、水漬く屍。山ゆかば……」

「名も知らぬ遠き島より、流れよる、椰子の実一つ……。」

工場支給のヨレヨレの戦闘帽に、脚にはゲートルを巻いて、脚が割箸のように細い私には、ゲートルはざり落ちてなじまず、大き

らいだった。救急袋を肩からかけて勇ましく見えた。これが私共女子学徒隊の通勤風景だった。

「新じゃが十五コ」や「切り干し大根の煮つけ一皿」が食事では、いつも、おなかはペコペコで、食べることもばかり考えていた。だが、みんな美しい顔で、ひもじいなどとは一言もいわなかった。だって、みんなが、そうなんだから。

土手に一箇所、高射砲の陣地があった。少年兵が四、五人、網に草を入れて被り、高射砲にも被せて射つのだが、当たったことがない。「威嚇だけなんだって。」何ともやり切れない気持ちになる。空中戦では、特攻機は、敵にぶつかっても、うすい煙を残して落ちて行く。

工場に着いて、それぞれの部署につき、私は配属になった学徒課へ行く。ここでは、大学生、女子師範、可愛らしい中学の二人の少年が、私と同じ仕事をしていた。主に学徒隊のつきそいの先生方に旅費を出す仕事だった。一日が終わると、稲永新田の宝神寮にたどりつき、蚤と格闘がはじまる。敷布団のまわりに、蚤取り粉の土手をこしらえた。蚤の数は数えきれない程で、ものすごいなどという言葉では、あらわせなかった。そして雨の日は、大変だった。廊下

にはバケツ、空かん、洗面器が並び、部屋の掛け布団の上に洗面器が乗る。雨水のはねかえりで、周り中ビショビショだった。屋外は小ぬか雨でも屋内はドシヤ降りだったよ

などと、笑うしかなかった。

またこの水は塩分が多く、飲み水や洗濯には適さず、飲み水は中央棟のポンプだけだった。

次第に敗戦の色濃厚となり、名古屋は空襲でボロボロになり、女高師隊は、瀬戸へ疎開することになった。瀬戸は街の中央に川が流れ、両側に瀬戸物屋が並んでいた。川の水は、陶土で乳白色だった。瀬戸の地下工場は陶土を掘り取っただけの穴ぐらに作業台を置き、設備もなく仕事にはならなかった。

宿舎は、お寺の本堂。仕事もなく、ただブラブラしていたので、同級生のSさんに誘われ、お寺の事務棟を探検しに行った。廊下を歩いていた時、襖が開いて、住職に声をかけられた。「あなた方はどこの学校から」などや、「それは大へんだ。しっかり勉強して下さい」と、友人には厚手の冬茶碗、私には薄手の夏茶碗を下さった。ずい

ぶん引越しをしたが大切な私の宝物の一つだ。終戦のこの時に、名古屋、瀬戸と、私が生きてきたあかしとして。

瀬戸に移って五日目の正午、寺の本堂の前庭に集まって、玉音放送をきいた。泣いていた人もあつた。私は全身の力がぬけていくようだった。長いサーベルに、黒長靴の憲兵の言葉が頭をよぎった。「お前達は、庄内川の土手を上陸してくる敵を、一人でも多く竹槍でやつつけるんだ。」単純な私は、ほんとうにそうだと思っていた。自分が先にやられることなど念頭になかった。でも、竹槍合戦なんてそんなことは起きなかった。

学半ばに逝った学徒の方々。

勉強することを思い起こさせて下さった住職さん。あの竹槍の憲兵さん。等々、皆様どうしていらつしやるでしょう。五十年経った現在もふと思ひ出す。あの人は現在……と。

次号へつづく

注

作者の方がおられた瀬戸の工場は、愛知航空機(旧)百地区の菱野工場でお寺は宝泉寺と思われまふ。また東京女高師(女子高等師範学校)は現「お茶の水女子大学」(寺脇)

写真で観る晴嵐 28 号機修復の全貌 第 26 話

愛知航空機研究家・渡辺哲国

総組立

2000年2月末、晴嵐28号機の総組立が開始された。#10棟内の事務所前に各コンポーネントが集められ、クレーン車が準備された。まず、架台上の胴体に左右の主翼が組付けられた。この状態では主翼はスムーズにチルト出来るが、架台の胴体受け脚が干渉し、チルト可能範囲は15度位である。PEGFではオリジナル保存の観点から、無理な折畳・展張トライアルは行わなかった。主翼に固定ピンが挿入され、配索、配管、配線が結合された後、吊上げに入った。(三点式の吊上げ金具は晴嵐取説用写真を参考にボブが設計・製作した。) クレーンで吊上げられた胴体は、主翼と床の脚柱が位置合わせされ(ロケットピンあり)、4箇所の結合金具が90度回転され固定された。左右の脚柱を結合後、吊上げ位置を高くし、浮舟が据えられ、浮舟上部のロケットピンにインチングで下ろされ、同様に結合された。最後に主翼や脚柱のカバー類が取り付けられ、エド・マッソーが製作した移動用台車に搭載された。

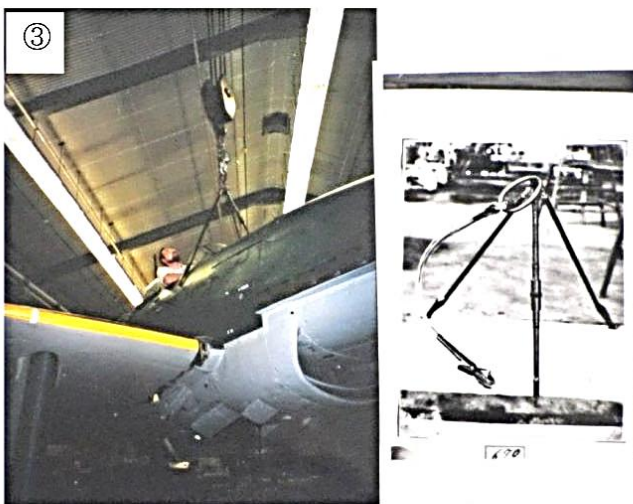
こう述べても主翼の組付けと浮舟装着が非常に簡単に出来たように思われるが、取説も無く、手探りで作業のため約1ヶ月を用いた。その後ステンシル文字の追加や信号拳銃などの装備品の搭載が行われ、2003年12月にダレスセンターに正式展示された。 次号へつづく



①架台上の胴体に左右の主翼が組付けられた



②この状態では、架台の胴体受け脚が干渉し、主翼のチルト可能範囲は15度位である



③④3点式の吊上げ金具を用い吊上げに入った





⑤左右の脚柱の結合終了



⑥吊上げ位置を高くし、浮舟の結合準備



⑦

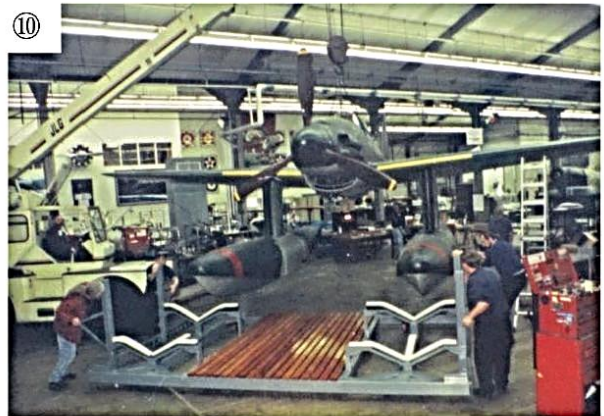


⑧

⑦⑧浮舟の結合終了



⑨



⑩

⑨⑩晴嵐専用の移動用台車に搭載中



⑪



⑫

⑪⑫移動用台車に搭載終了、これから細部の点検と仕上に入る

寺脇 正治 様

お世話になります。大垣市立図書館の織田と申します。

お電話しましたがつながらなかったため、メールにて失礼します。

大垣市内の学校で、旧愛知航空機株式会社の疎開工場を確認しましたが、該当する所はありませんでした。いただいた資料の地図を確認したところ、大垣市ではなく、垂井町の可能性があるため、

①『垂井町史』（通史編）を確認したところ、府中小学校の箇所に、

「（昭和）二〇年四月一九日には愛知航空機株式会社の試作工場として教室五部屋を貸与」とありました。また、

②『かしの木と共に 府中小学校百年誌』の年表中にも、「昭和二〇・四・一九 愛知航空機株式会社試作工場として教室五間を貸与す」とありました。

なお、垂井町のその他小学校の箇所には、関連する表記は見られませんでした。

《参考文献》

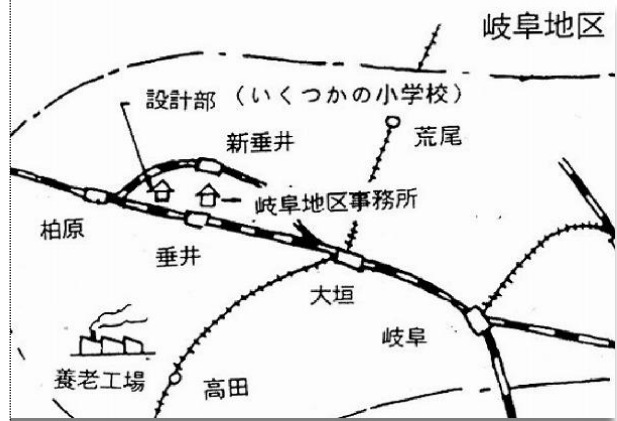
①『垂井町史』（通史編）、岐阜県不破郡垂井町役場、1969、p761

②『かしの木と共に 府中小学校百年誌』、府中小学校創立百年祭実行委員会、1973、p140

参考文献①は、多治見市立図書館にも所蔵があります。また、①②は、岐阜県図書館にも所蔵があります。

大垣市立図書館 歴史研究グループ 織田 光一

今年2月に父親が愛知航空機の疎開工場に勤めていたというSさんのお話を聞き、今まで、とくに調べてこなかった愛知航空機の疎開工場について調べはじめました。最初は、米国爆撃調査団の報告書にあった疎開工場の中で岐阜地区にあたる大垣周辺について大垣の図書館で調べていただいた結果が上のメールです。米軍の報告書には「設計部がいくつかの小学校」とか岐阜地区事務所とか書いてあるので、まだまだ出てくるようです。ただ小学校の百年史とか「個人情報があるので閲覧できない」と言われたことはショックでした。（寺脇）



インフォメーション



聖霊中・高の福山先生に。8月1日の総会時に集めたカンパ5500円（8月6日の広島慰霊ならびに原水禁大会参加のカンパ）をお渡ししました

編集後記



事務局員の高齢化にともない今年5月から事務局会が開けない状態が続きました。総会では事務局会の日時と会場を変更するべく提案しましたが、参加者からは事務局員で決めれば良いことだという意見があり、これからは臨機応変に対応していきたいと考えていますが、諸事情により毎月はじめの土日、パーティセと3階で行うことにしました。よろしくお願いします。

(T)